

歴史講座 13:30~15:00

- 講座番号⑦ 源氏物語講座⑦
 [光源氏の六条院邸 一野分の見舞いと夕霧] 令和2年度前期延期分
 日 時:11月21日(土)
 講 師:伊井 春樹(当館名誉館長)
- 講座番号⑧ 源氏物語講座⑧
 [光源氏の栄華の終焉 一女三宮の六条院への降嫁一]
 日 時:3月27日(土)
 講 師:伊井 春樹(当館名誉館長)

古文書講座 13:30~15:00

- 講座番号③ [古文書を読んでみよう 一入門・初級編①] ※未経験者・初心者対象
 日 時:11月29日(日)
 講 師:平井 誠(当館専門学芸員)
- 講座番号④ [古文書を読んでみよう 一入門・初級編②] ※未経験者・初心者対象
 日 時:12月20日(日)
 講 師:平井 誠(当館専門学芸員)

民俗講座 13:30~15:00

- 講座番号③ [水とくらし 一水源・水路と集落形成一]
 日 時:1月10日(日)
 講 師:大本 敬久氏(当館専門学芸員)

考古講座 13:30~15:00

- 講座番号③ 共催展関連講演会「山岳霊場奈良山の世界観を探る」
 日 時:11月14日(土)
 講 師:山本 義孝氏(日本山岳修験学会理事)
- 講座番号④ 共催展関連講演会
 [国史跡等妙寺旧境内の調査成果と展望]
 日 時:12月13日(日)
 講 師:織田 誠司氏(鬼北町教育委員会)
- 講座番号⑤ [西予市の近年の前方後円墳の調査成果]
 日 時:2月21日(日)
 講 師:兒玉 洋志氏(西予市教育委員会)

特別展「戦国乱世の伊予と城」関連講座

- 講座番号① [歴史]学芸員リレー講座
 [能島城・湯築城・河後森城の『守り』を知る]
 日 時:10月4日(日) 13:30~15:30
 講 師:田中 謙氏(今治市村上海賊ミュージアム)
 神石 都氏(湯築城資料館)
 亀澤 一平氏(松野町教育委員会)
- 講座番号② [体験]「国史跡めぐり 国境の城 河後森城に登る」**現地集合**
定員20名
 日 時:10月11日(日) 13:30~15:30(予定)
 講 師:亀澤 一平氏(松野町教育委員会)
 対 象:小学生~一般
 参加費:無料
 【締切】:9月27日(日)
- 講座番号③ [体験]「国史跡めぐり 海賊の城 能島城に上陸」**バスツアー**
定員20名
 日 時:10月17日(土) 8:30~18:30(予定)
 講 師:田中 謙氏(今治市村上海賊ミュージアム)
 対 象:小学生~一般
 参加費:5,000円~7,000円
 【締切】:10月3日(土)

講座番号④ [体験]「国史跡めぐり 守護の城 湯築城を探索」**バスツアー**
定員20名
 日 時:10月25日(日) 12:00~18:00(予定)
 講 師:神石 都氏(湯築城資料館)
 対 象:小学生~一般
 参加費:2,000円~3,000円
 【締切】:10月11日(日)

講座番号⑤ [歴史]「伊予の乱世の諸相 一『戦い』の時代と『境目』の伊予一」
 日 時:11月1日(日) 13:30~15:00
 講 師:山内 治男(当館専門学芸員)

体験講座

- 講座番号⑥ [モラ ~カリブの民族手芸~]
定員各8名
 日 時:①10月31日(土) 13:30~15:30
 ②11月8日(日) 13:30~15:30
 ※両日とも同じ内容です。
 講 師:松野尾 ひとみ氏
 (宮崎ツヤヤモラ研究所講師)
- 講座番号⑦ [おいしいコーヒーの淹れ方
 一一杯のコーヒーから考える食のこと日本のこと世界のこと一]
定員各10名
 日 時:①11月22日(日) 13:30~15:30
 ②12月6日(日) 13:30~15:30
 ※両日とも同じ内容です。
 講 師:藤山 健氏(オフィスナチュレ代表)
 対 象:一般
 参加費:1,000円
 【締切】:11月8日(日) (両日とも)
- 講座番号⑧ [やってみよう! 拓本体験] ※未経験者・初心者対象
定員10名
 日 時:3月21日(日) 13:30~15:00
 講 師:中村 美琴(当館学芸員)
 対 象:小学生~一般 ※小学生は保護者同伴
 参加費:無料
 【締切】:3月7日(日)

特別展「明石寺と四国遍路」関連講座 13:30~15:00

- 講座番号① [民俗]「明石寺と四国遍路展のみどころ」
 日 時:2月20日(土)
 講 師:今村 賢司(当館専門学芸員)
- 講座番号② [考古]「考古資料から見た明石寺周辺」
 日 時:3月6日(土)
 講 師:亀井 英希(当館専門学芸員)
- 講座番号③ [民俗]「茂兵衛の歩んだ道 一標石より考える一」
 日 時:3月7日(日)
 講 師:喜代吉 榮徳氏(東田大師堂住職)
- 講座番号④ [歴史]「絵図で読み解く遍路道」
 日 時:3月13日(土)
 講 師:井上 淳(当館学芸員)

申込方法

希望する講座名・講座番号とご住所・お名前・年齢・電話番号など必要事項を記入し、開講日の1週間前までにハガキなどでお申し込みください。
 ※定員に満たない場合は、申込締切後にも受け付けます。

お問い合わせ 企画普及グループ・歴史文化講座係
 TEL(0894)62-6222 FAX(0894)62-6161

開館記念日

11月15日
 当館は11月で開館26年目を迎えます。
 11月15日(日)は、常設展・特別展が無料でご利用いただけます。
 ぜひ、博物館へお越しください。

ご利用案内

■開館時間 9:00~17:30(入館は17:00まで)
 ■休館日 月曜日(下記カレンダーをご参照ください)
 ■観覧料

	区分	一般	団体(2割引)
常設展・テーマ展	大人(高校生以上)	520円	420円
	中学生以下	無料	無料
	65歳以上	270円	220円
新常設展		観覧無料	

※特別展の観覧料はその都度定めます。 ※団体は20名以上です。
 ※テーマ展をご覧いただくには、常設展示観覧料が必要です。

Museum Calendar 2020.10-12

10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3				1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31		

● 休館日 ★ イベント

展示スケジュール 2020.9-2021.3

年	月	展示内容
2020	9	特別展「戦国乱世の伊予と城 一 国史跡 能島城・湯築城・河後森城の世界一」
	10	9月19日(土)~11月23日(月・祝)
	11	▶開館記念日イベント 11月15日(日)
2021	1	▶新春イベント 2021年1月2日(土)・3日(日)
	2	▶おひなさまイベント 2021年2月27日(土)・28日(日)
	3	特別展「明石寺と四国遍路」 2021年2月11日(木・祝)~3月14日(日) ※今後の状況によってはイベント内容を変更、中止する場合がございます。

常設展「えひめの歴史と文化」
 新常設展「密・空・海 一内海清美展」

愛媛県歴史文化博物館
 MUSEUM OF EHIME HISTORY and CULTURE

管理運営:指定管理者 いよつ総合企画
 〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2 電話:0894-62-6222
 【ホームページ】 <http://www.i-rekihaku.jp>
 ●発行日 令和2年8月15日 ●編集/発行 愛媛県歴史文化博物館

歴博だより
 Museum of EHIME History and Culture News

テーマ展

戦後75年
 伝えたい10代の記憶

9月12日[土] - 10月25日[日]

会場:文書展示室

今年の夏で終戦から75年。今回の展示では、中学生や女学生など10代の若者たちを取り上げます。思春期の多感な時代を戦時下に生きた少年・少女たちの学校生活・予科練生活・空襲体験を、当時の日記・日誌・作文・アルバムや、聞き取り調査の成果などから紹介し、戦争の悲惨さと平和の尊さを考えます。



女学生の日記・日誌(昭和10年代/当館蔵)



空襲で焼け残った松山中学校の明教館(昭和20年/故山内一郎氏撮影/当館蔵)

テーマ展

伊予市高見I遺跡とその時代
 一四国最古級の旧石器時代遺跡一

9月12日[土] - 10月25日[日]

会場:考古展示室

本年3月に完成した伊予市双海町の松山自動車道の中山スマートICの建設に伴い、2017年に「高見I遺跡2次調査」が実施されました。調査の結果、四国最古級の後期旧石器時代の遺構・遺物が多数確認されました。本展では、これらの発掘調査資料及び当館保管の旧石器時代資料を紹介します。



同遺跡出土 剥片尖頭器(左端)とナイフ形石器

※テーマ展の観覧には常設展観覧券(高校生以上520円/65歳以上270円/小中学生無料)が必要です。

歴史

ある中学生の戦時下における日記

年代：昭和18(1943)年～昭和20(1945)年
 法量：縦18.5cm × 横27.5cm
 所蔵：当館蔵

今年で終戦から75年。今回は戦時下の中学生が書き残した日記を紹介します。
 日記の筆者は橋爪陽一さんです。昭和2(1927)年に現在の伊予市中山町に生まれ、同15年に松山中学(現松山東高校)に入学しました。当時の中学校は5年制。入学の翌年には太平洋戦争が始まりました。戦局が悪化すると生徒も労働力とみなされ、同19年には学徒勤労令を受けて、8月に新居浜市の住友機械工業へ動員されました。
 日記によると、集団生活のためか赤痢が流行したり、慣れない機械で怪我をしたりすることもあったようです。昭和19年10月からは昼夜二交代制となっています。このような中でも5年生の橋爪さんは勉学に励みました。「勉強足らず。勤務中の暇を見て化学カードをやれ」、「化学遅々として進まず。努力努力。死んでもやれ」など、自分を叱咤する言葉が随所に見られます。努力は結実し、翌年1月に目標としてきた松山高等学校(現愛媛大学)に見事合格しました。3月、新居浜の工場で卒業式が行われました。しかし、その後も動員が続き、高等学校の入学式は7月、授業の開始は終戦後の10月になってからでした。

橋爪さんが厳しい勤労働員の中でも、これほどまでに勉学に打ち込んだのはなぜでしょうか。ある日の日記に「本日陸士海兵の発表、目さへ悪くなかったらと残念に思ふ」とあります。陸軍士官学校や海軍兵学校にあこがれつつも、身体的な理由であきらめた悔しさを昇華させるように松山高等学校への進学を目指したのかもしれない。

この資料からは戦時下に生きた学生の煩悶する姿を垣間見ることができます。

(学芸員 中村美琴)



※本資料は秋に開催されるテーマ展「戦後75年 伝えたい10代の記憶」(会期：9月12日～10月25日)で展示します。ぜひご覧ください。

歴史

御庄基経知行目録

年代：天正15(1587)年 正月吉日
 法量：縦28.8cm × 横38.1cm
 所蔵：当館蔵

現在の愛南町域に、かつて京都の青蓮院門跡の荘園があったことをご存知でしょうか。観自在寺荘というその荘園は、「御庄(御荘)」とも呼ばれ、土着した坊官は御庄氏を名乗り、戦国時代には独自の地域支配を行いました。本資料は、御庄権大夫基経から配下の尾崎藤兵衛尉政儀へ、所領給付の内訳を示した目録です。

基経は、『宇和日記』に、勸修寺氏流御庄氏の基明・基詮に続く人物として、天正16(1588)年没の「権ノ太夫基賢」が見えており、同一人物を指すのかもしれませんが。目録には、尾崎氏に与えられた「長洲」(愛南町)など11ヶ所の所領が合計2貫30文で記されています。

興味深いのは、右端に「御給」とあること。御庄氏はかつて土佐中村(四万十市)の一条氏に従っており、こうした文言は一条氏の承認の証しとして付されたものという指摘があります。しかし、一条氏は同3(1575)年に長宗我部氏に敗れ、すでに土佐を離れています。年号は後筆で実は一条氏時代の文書だとする見解もありますが、どうもそのようにも見えません。

その後、長宗我部氏は同13(1585)年の四国平定で土佐一国に封じ込められ、伊予は当時小早川氏の領国になっていましたが、支配が伊予南端まで十分に行き届いていたようにも見受けられません。もしかすると、御庄氏が単独で所領給付を行い、何らかの意図により従来慣習を踏襲した書式を用いた可能性も推測されますが、詳細は謎のままです。

本資料は、確実に御庄氏発給と分かる原文書としては唯一のもの。予土国境地域の歴史を伝える数少ない資料です。

(専門学芸員 山内治朋)



※「御庄基経知行目録」は秋の特別展「戦国乱世の伊予と城」で展示します。

特別展

戦国乱世の伊予と城

—国史跡 能島城・湯築城・河後森城の世界—

令和2年 9月19日[土] — 11月23日[月・祝]

【観覧料】 高校生以上550円 / 小中学生・65歳以上280円

本展では、東予・中予・南予それぞれに所在する、国の史跡指定を受けた戦国時代の三城に入ポイントをあてて関連資料を一堂に会し、関係施設・機関とも連携しながら、歴史資料や考古資料をもとに、三者三様ともいえる城、城主、取り巻く歴史などを紹介します。



湯築城出土 タイ産鉄絵壺
(愛媛県教育委員会蔵)

守護河野氏の湯築城の家臣団居住区から出土したタイ産の壺で、縦横の直線文に唐草状の文様や波状の文様が鉄絵で描かれている。



河原淵教忠菩提書
(照源寺蔵・松野町教育委員会保管)

河後森城主の河原淵教忠が菩提書の照源寺の寺領について、今までと変わることなく安泰であることを保証した菩提書。

背景：伊予国嶋々古城之図(個人蔵)

テーマ展

奈良山等妙寺の宝と 国史跡等妙寺旧境内展

【料金】 常設展観覧料金が必要

〈文書展示室〉 令和2年 11月14日(土) — 令和2年 12月13日(日)
 〈考古展示室〉 令和2年 11月14日(土) — 令和3年 1月24日(日)

西南四国最高峰の山々が連なる山岳霊場「奈良山」。山中には、かつて奈良山が信仰の対象であった歴史を伝える、無数の痕跡が遺されています。それらを紐解く鍵となるのが、中世の山岳寺院跡、国史跡等妙寺旧境内です。今から七〇〇年前、天台仏教総本山比叡山の戒律復興の修行道場として開かれ、以来二六〇年間、西南四国地域の拠点寺院として隆盛しました。今回のテーマ展では、史跡の発掘調査等による調査成果と合わせて、現在の等妙寺に伝わる寺宝類を一堂に会して公開し、西南四国最大の山岳霊場「奈良山」に迫ります。



熊ノ田遺跡出土
多字一石経(写経石)
13世紀前半

等妙寺蔵
「木造菩薩(伝如意輪観音)遊戯坐像」
(愛媛県指定重要文化財) 13世紀前半



等妙寺旧境内(平坦部A)出土
褐釉龍紋壺
16世紀

れきはくのおしあと

臨時休館を経て、5月12日から特別展「かこさとし絵本展」が開催されました。開館再開後の5月の来館者数はやはり少なめでしたが、6月の中頃には徐々に来館者も増え、土曜、日曜には家族連れの姿も見られるようになりました。展示を観て興味を持ち、ミュージアムショップで絵本を購入する家族や、図書室の特設コーナーにて親子で絵本を眺める姿も見られました。ワークショップや講座も再開し、博物館に賑わいが戻りつつあり、嬉しく思います。皆さまが安心して楽しく博物館で過ごしていただけるよう、これからも職員一同、健康管理や環境整備に努めます。

